



小・中学校の不登校児童・生徒への対応は



初心 酒井 信幸

問 不登校児童・生徒が登校した場合、教室や保健室での先生のかかり方はどうなっているのか。

教育長 居場所をつくるのが一番大切なので、どの職員も声をかけること、励ますことを全校体制で取り組み、学習面では、保健室に行ける子どもには養護教諭が指導します。教室に行ける子どもには、空き時間の教員や教頭が指導します。

問 欠席している場合はどうなっているのか。

教育長 朝に家庭から連絡をもらい、連絡がない場合、担任が家庭訪問や電話をします。家庭の様子を聞き、また、学校の出来事を本人や保護者に話し、登校できるよう支援しています。

相談員の常勤配備を

問 子どもと親の相談員やスクールカウンセラーが配置されているが、不登校児童・生徒に対してどのような対応を行っているのか。

教育長 児童、生徒へのカウン

セリングや、保護者、教員との相談活動等で、登校への援助をしています。

問 スクールカウンセラーの常勤配備について検討できないか。

教育長 カウンセリングには、本人や保護者、関係者に考えてもらう時間が必要です。また、市教委の困り事相談所、市の青少年室の相談事業など総合的に取り組んでいきます。常勤配備は今のところ考えていません。

二次救急医療体制の充実



改革・公明 長田 忠広

問 現在岩沼市は、日・祝日・年末年始の二次救急医療体制はとっているが、平日夜間はどうなっているか。

そこで平日夜間の二次救急医療体制の必要性の見解を伺う。

市長 本年度改定された第5次宮城県地域医療計画において、旧岩沼医療圏は仙台医療圏に統合されましたが、必ずしもしっかりとした体制が構築されていませんので、引き続き県に要望をしています。

旧岩沼医療圏の平日夜間の救急医療体制は、残念ながら脆弱

(せいじゃく)なのは明らかです。市民の皆さんの安全安心を確保するために充実を図ることは、喫緊の課題と考えています。

岩沼市が先行しては

問 2市2町で検討をしているが、もし、財政負担割合等で話がまとまらなくても、岩沼市は平成21年度から財政負担をも体制づくりをしてはどうか。

市長 できるだけ2市2町でできればいいと思いますが、場合によっては話が整わない状況でも、岩沼もしくは全体ではなくとも、21年度からしっかりと実行していかなければならないと考えています。

インターネットを利用した情報発信機能の強化



ピアネット いわぬま 大友 克寿

問 行財政改革の取り組みの中に、「情報発信機能の強化」とあるが、現在どのような取り組みを行っているか。

総務部長 平成17年度からホームページを一新し、発信については多くの行政情報提供が行える環境を整え、市の施策や観光情報などを提供しています。また受信については、ホームページからメールでご意見を頂ける

よう改良をしています。

バナー広告の検討を

問 市のホームページへのバナー広告掲載は検討しているか。
市長 実施に向けた具体的な検討を進めている最中です。



岩沼市のホームページ

問 市民のニーズをよりの確に把握するため、インターネットを利用したモニター制度を検討してはどうか。

市長 市民のご意見を投書、電話やメールで随時受け付けていますので、現時点でのインターネットを利用したモニター制度まで考えていません。

2 バナー広告の画像を利用したインターネット上の広告

介護施設等への入所待機



維新 渡辺 真多